

「未来の学術振興に向けた重要な学術研究の骨太な取りまとめ」
に当たっての主な検討課題と主な論点

学術研究振興分科会に対し、(中略) 取りまとめを行う意義、未来の学術振興のビジョン、対象とすべき研究計画の要件、人文・社会科学分野を含む各分野のバランス、策定過程におけるステークホルダーからの意見の反映や利益相反への対応等について整理・検討し、今期中に、未来の学術振興に向けた重要な学術研究に関する骨太な取りまとめを行うよう要請する。

1) 取りまとめの意義

- ・ ボトムアップ型の学術研究提案の重要性
- ・ 重要な学術研究計画のリストアップ、可視化の必要性
- ・ 予算や政策等の制約から独立して、純粋に学術的見地から議論を行う重要性
- ・ 個別分野に閉じることなく、分野横断の視点からの議論の必要性
- ・ 中長期的な学術研究の方向性等について議論することにより、科学者コミュニティ全体の活性化させることへの期待

2) 未来の学術振興のビジョンの提示

- ・ 様々な分野から提案を募るだけにとどまらず、関連性のある提案やシナジー効果が期待できる提案を、グループ化して整理することを通じて、より大きな学術振興の“ビジョン”として提示していくべきではないか。
- ・ 予め公募段階で“ビジョン”の方向性を示すことの可否

3) 対象とすべき学術研究計画の要件

- ・ 人文・社会科学分野からの提案を促進するための方策
- ・ 中長期的・俯瞰的な観点の確保 (まず、将来展望を描き、その上で、そこから必要となる学術研究計画を敷衍してはどうか)
 - いきなり研究計画を提案するのではなく、学術研究の動向や 30 年先を見通したが将来展望をまず提示させるべきではないか。
 - その上で、今後 10 年間で実施すべき学術研究計画や整備すべき研究施設・設備を提案させてはどうか。
- ・ 分野横断的視点への配慮
 - 分野を跨る提案や複数の分野に裨益する提案の扱い
 - 個別分野のみに係る提案の扱い (特に先鋭的な提案の扱い)
- ・ 学術研究計画の規模等【科研費との関係性】
 - 「科学研究費補助金で実施困難なもの」という前提は維持すべきではないか
 - 予算以外の“実施困難”となる要因についても配慮すべきではないか
 - 予算規模を条件に加えることは必要か

4) 分野間のバランス

- ・ 人文・社会科学分野からの提案を促進するための方策【再掲】
- ・ 学術研究計画の絞り込みでは、特定分野に偏らないようにすべきではないか
-優先順位ではなく、計画の質、成熟度、学術的意義等の品質保証に徹してはどうか。

5) 策定過程の透明性の確保

- ・ 外部機関からの意見聴取の要否
- ・ 策定プロセスの公表の要否とその方法

6) 提案者（利益相反）

- ・ 提案者の範囲（研究教育機関長・部局長、会員・連携会員、学協会長）の見直しの要否
- ・ 利益相反、お手盛り批判への対応

7) 審査・評価

- ・ 審査プロセスへの第3者（非会員・非連携会員）の参画の適否
- ・ 2段階選抜（大型研究計画と重点大型研究計画）の維持の要否と選抜の考え方
- ・ 審査方法と体制
- ・ 審査に当たっての観点

8) その他

- ・ 過去のマスタープランに掲載された重点大型研究計画等の取扱い